

興津宿 日本はここから見えていた ● 約4km

1300年も前から関が設けられ、その立地が政府にとって重要な場所として位置づけられていた興津は、明治時代になると財政各界の著名人の別荘地として脚光を浴びていました。このコースは旧東海道を歩きながら開国時の日本に思いをはせます。

- 旧東海道
- お勧め探訪コース
- 情報拠点
- 見どころ
- 案内板・説明板・マップ
- スタンプ設置場所
- 写真撮影ポイント
- ★ 特典場所・店
- ♀ バス停
- 🅑 駐車場
- 🚻 トイレ
- 🏪 コンビニ
- 興津町の小さな博物館

①日本の三大並木

独立行政法人農業生物系特定産業技術研究機構果樹研究所には日本初剪定した「ブラタナスの並木」が30mにわたり植えられています。これは英国キュー植物園でアメリカ種とヨーロッパ種の高配によりつくられました。東大のいちよう並木、北大のポプラ並木と並んで明治時代の三大並木の一つです。山の中腹には、ワシントンのポトマック河岸に植えられている「寒桜」の原木があります。

②一碧楼水口屋跡 脇本陣

(水口屋ギャラリー フェルケール博物館別館)
水口屋初代当主は、武田信玄の家臣、興津岩の主であり、武田家亡き後、塩や魚などを甲斐へ物資を送る商人でした。江戸時代には脇本陣、明治以降は、政治家、皇族、財界人、小説家、画家などの各界著名人の別荘旅館として愛され、昭和32年の国体の天皇皇后陛下の宿舎としても選ばれました。
第二次大戦後、占領軍に接収されたなか来日したアメリカ人オリバー・スタットラー氏が昭和36年に「JAPANESE INN〜東海道の宿 水口屋ものがたり」を出版し、評判となり、多くの外国人観光客が訪れた旅館でしたが、昭和60年に廃業し、現在はギャラリーとして代々水口屋に受け継がれた資料を公開しています。
●10:00~16:00
●休/月曜日・年末年始
●無料

朝鮮通信使とは…

家康の要請により1607年から約200年間12回、国賓として来日しています。清見寺で宿泊し、地域の人たちと儒学・医学、詩文、書画等の交流を、夜を徹して行われました。隣国同士が約260年もの間平和で対等な交流を行っていたことは世界中でも珍しいことです。



7 井上馨旧邸跡
(静岡市埋蔵文化センター)

興津は赤いポストの発祥地? 明治45年設置。東海地方で一番古い丸型ポスト

6 情報拠点: 坐漁荘

1610年琉球王国の親善使節として急死した王子の墓もあります

4 清見関跡

5 清見寺

丸形ポスト

2 一碧楼水口屋跡 脇本陣

糸屋博物館 堀江糸店

大正4年の海岸線

延命地藏尊

横砂バス停

井上馨公爵の銅像

清水清見湯公園

津島神社

万葉歌碑

3 皇太子殿下海水浴跡

清見寺IC

“最後の元老” 西園寺公望公とは…

3歳で公卿西園寺家の当主となり、ソルボンヌ大学で10年学び、日本人で初めて正規の学位を受けた。明治・大正・昭和の政治家であり、(総理大臣経験者)、平民主義を貫いた。透徹した見通しと冷静な分析、豊かな国際経験と公正な政治的な見識の持ち主として高く評価されていました。

元老とは…

元老とは、明治天皇より「元勳優遇」と呼ばれる特別の勅語を受けた天皇の相談役。伊藤博文(長州)、黒田清隆(薩摩)、山県有朋(長州)、松方正義(薩摩)、井上馨(長州)、西郷従道(薩摩)、大山巖(薩摩)、桂太郎(長州)、西園寺公望(京都)の9人が元老であり、そのうち伊藤、松方、井上、西園寺の4人は興津に別荘や借別荘を持っていたそうです。

③皇太子殿下海水浴跡

明治22年、東海道線が静岡まで開通したことで、皇太子(大正天皇)が興津に来訪しました。この時は清見寺に滞在し、興津の海(清見湯)で海水浴を楽しみ、興津は全国的に有名に。皇太子は翌年も海水浴に訪れています。

④清見関跡

約1300年前の白鳳時代、東北の蝦夷に備えた関所として清見関が設けられました。その関所の鎮護として仏堂が建立され、それが清見寺の創建として伝えられています。

⑤清見寺

徳川家康の幼年時代に教育を受けた「手習いの間」があり、家康公が接木と言われる「臥龍梅」、宋版石林先生尚書伝、梵鐘、山門、紙本墨画達磨像、猿面硯、梵字見台など数多くの文化財があり、境内全域が朝鮮通信使関係史跡に指定されています。五百羅漢は、江戸中期の仏像でそれぞれ違った表情をしており、傑作と称され、島崎藤村の「桜の実の熟する時」の一節にも登場しています。
朝鮮通信使、琉球使節が訪れ、寺内に朝鮮通信使の扁額が残っており、異文化の窓口でもありました。この寺は三葉葵の紋を許され、徳川家の帰依をうけていました。

⑥坐漁荘

敷地300坪。京風の瀟洒な木造二階建。元老西園寺公望公が晩年の20年余を過ごした別荘である。「坐漁」とは中国の故事で魚釣りでもしてのんびり過ごすことを意味するが、当時は、政客がひきもきらず訪れ、「興津もうで」という言葉を生み出した。現在の建物は復元され、平成16年4月に一般公開され、「坐漁荘観光ボランティア」のスタッフが常時来館者への解説を行っています。

- 10:00~17:00(平日)、9:30~17:00(土日祝日)
- 休/月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始
- 無料

⑦静岡市埋蔵文化財センター

明治の元老井上馨別邸「長者荘」跡地にあり、市内で発掘された遺物が公開されています。

- 9:00~16:30
- 休/第2・4・5の土日と祝日、年末年始
- 無料

案内人や施設などの情報はここにアクセス!

